
仮面の裏側

綾畝章人

注意事項

このPDFファイルは小説サイト「小説家になろう」で掲載中の小説を、「PDF小説ネット」の変換システムが自動的にPDF化したものです。この小説の著作権は作者にあり、作者または「小説家になろう」および「PDF小説ネット」を運営するウメ研究所に無断でこのPDFファイルおよび小説を引用を超える範囲で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止します。小説の紹介や個人用途での印刷および個人用途での保存はご自由にどうぞ。

【小説名】

仮面の裏側

【Nコード】

N0045C

【作者名】

綾畝章人

【あらすじ】

ネットで知りあった彼女と付き合い合っていた琢司は、ある時、別のネット仲間に彼女の悪口を言ってしまう。しかし、その相手は実は彼女の別のハンドルだった。複数のハンドルを使って相手を観察するネットストーリーカー、マルチハンドラーの恐怖を描く作品。

午後一の語学はたるいが、これが終わればちえりに会えると思うと許せる。外人のちよつと変な日本語まで、優しい気持ちで聞き流せるから不思議だ。

ちえりとはネットで出会って気が合い、デートを重ねて今回で3回目になる。はじめて会った時は、正直ちよつとがっかりだったけど、話してみれば面白い気の合う相手だった。やっぱり趣味が近くて話を通じあうってというのは大きいな。

デートのプランもネットで知りあったシュンって奴と詰めてあるし、今回あたり、そろそろちえりのハンドルじゃなくてリアルゲームが知りたいところだ。ああ、携帯でもいいけど、そんな感じの作戦。まあ、練るだけは練ったし、後は出たとこ勝負だな。

ともかく、一年前まではパソコン？ よく分かんねー、という超ビギナーだったけど、今じゃオレもバリバリにパソコンしてる。っていうか、ネットで彼女とか作ったし、かなりいけてる方だろ？ いわゆるオタクってヤツ？

オタクで思い出した。最前列に座ってる遠藤聡実ってヤツ。あれ、本物のオタク。

どっからどー見ても真面目そうで、すっげーつまらなそうなヤツなんだけど、ネットでたまに会う。というか向こうから、「あなたA大の里山琢司でしょ？」って話しかけてきた。それで、ネットとかスゲー詳しいの。普段すっげー大人しいのに、ネットだと饒舌なんだぜ、あいつ。

おっと、目が合った。リアルでは他人のふりする約束してっから無視しとかねーとな。

授業に集中、集中、と。

イマイチうまくいかなかったデートから帰ると、オレはすぐにチ

ヤットにログインした。

> ルーム37 たくじー さんがログインしました

シュン> お、きたきた

シュン> どうだった？

たくじー> うーん、イマイチだった

シュン> つまんなかったの？

たくじー> いや、作戦の方

シュン> ああ、そっちか……いけると思ったんだけどな

たくじー> うまくかわされた

シュン> 手ごわいなあ

オレはシュンに今日のあらましを語って聞かせた。まあ、どう言
ったところでうまくかわされた事には変わりはないんだけどな。

シュン> 残念だったな

まあ、そんな事もあるさ。まだ3回目だし、焦らずにやるさ。

そんなわけで、めげないオレはシュンと次のデートプランを練る
ことにした。過去は振り向かない主義なのさ。

それは数日後の事だった。オレが一人にしていたら、突然、聡実
が話しかけてきたのだ。

> ルーム17 聡みい さんがログインしました

聡みい> よっす 最近どう？

たくじー> んーバリバリっすよ

聡みい> バリバリっすか いいですね

お？ 何かいつもよりノリが悪いぞ？

たくじー > どうした？ いつもより元気ねーじゃん

聡みい > 友達がちよつとトラブってさ

聡みい > マルチハンドラーって知ってる？

マルチハンドラー？ はじめて聞くな。オレは素直に知らないと言ったら、それが何者であるか教えてくれた。マルチハンドラーというのは複数のハンドルネームを操る人物の事で、それだけならいくらでもいるのだけど、特に複数のハンドルを駆使して他人の個人情報をも面的に集める、ストーカーのような連中を言うらしい。

聡みい > たくじーも気をつけなよ

聡みい > 女でもいるらしいから

フーン、そんなのも居るんだな。まあ、変なヤツはどこにでも居るからな。オレなんか、オープンな性格してつから、知られちゃ困る事なんか何もねーけどな。

って、事は聡実の友人がそれに絡まれて、ってパターンか。

聡みい > うーん、あたしはちよつと制裁を

おおっ怖っ。これだから真性のプロフェッショナルは。オレなんか足元にも及ばないね。

オレは素直に聡実の警告に感謝しておく事にした。あんま、関係ねーけどな。

ちえりとの4回目のデートは散々だった。

> ルーム15 たくじー さんがログインしました

シユン > おう どうだった？

たくじー > 最悪

シュン> それは……どこらへんが
たくじー> つーかあいつ堅すぎ
たくじー> そーゆー柄じゃねーのによ

オレはシュンに不満をぶちまける。だいたい、顔だってスタイルだつてそこまでいいわけじゃねえのに、自意識過剰なんじゃねーか。つーぐらい堅い。どっちかって言うとな細工な方に片足突っ込んでくるくらいなのにな。心の中だけ清純系ですか？

シュン> 言うねえ、たくじー

シュン> 本気

たくじー> あー、前からそう思ってたんだ

たくじー> 付き合ってたのにさ

> ルーム15 ちえりさんがログインしました

ちえり> ふーん、そんな風に思ってたんだ

突然ログインしてきたちえりにオレは狼狽した。落ち着け、ログインしていない部屋の会話は見れないはずだ。

シュン> たくじ、全然気がつかなかったけど

シュン> あたしもちえりなんだよ

答えはシュンの方から来た。これまでシュンとしていた会話を思い出し、背筋が凍る。

ちえり> だから、おしまいだね

ちえり> 別れよ

ちえり> あ、あとそれから

ちえり> 今後あたしの事話したり、陰口たたいたりしたら
ちえり> あたしが持つてるたくじーの情報、ぜんぶ晒すから

……どういう事だ？

ちえり> 具体的には、シユンと相談したデートプランと、実際の行動の対比レポとかね

それが公開された事を想像し、恥ずかしさのあまり赤くなる。
白状すると、常にエロ分岐あつたし……ああ。

ちえり> 言っとくけど、あたし、ちえりとシユンだけじゃないから

ちえり> ……じゃあね、たくじ

そうしてちえりとシユンはオレの前から姿を消した。リアルはもちろん、ネットからも。

それはともかく、ちえりとシユンだけじゃないってどういう事だ？ ……聡実が言っていたマルチハンドラーって単語が脳裏をよぎる。オレは、はめられたのか？

その日からオレの疑心暗鬼なネット生活が始まった。

メグはちえりの友人だつて言っていたから、たぶん黒だろう。本人でないにしても危なすぎる。

トシはプロレス好きの大学生らしいが、挙げるのはメジャーな選手ばかりというのは怪しいといえれば怪しい。

アキオmk2は社会人だつて言ってたっけ？ こいつと知りあったのはいつだっけかな……。

リアルで知らないヤツはどいつもこいつも怪しく思えてくる。

オレは表面上、これまでと変わらないふりをしながら、慎重に言葉を選んでチャットするようにした。いつどこでちえりに見られるか分からない、というよりも、いつもちえりに見られている気がしていた。

最初に「最近、彼女とどう?」って聞かれた時には心臓が止まるかと思つた。「別れた」はセーフなのか? それとも「つきあつてる」じゃなきゃダメなのか? 悩んだ末「いろいろあつてさ」と答えたとこ何にもなかった。

くそつ、オレは被害者だつてなのに、何だつてこんな思いをしなきゃなんないんだ。

とはいえ誰かにばやくわけにもいかない。オレはそんな数日を過ごした。

> ルーム13 聡みい さんがログインしました

そんなオレに愚痴るチャンスがやってきた。マルチハンドラーの事を教えてくれた聡実なら大丈夫だろう。リアルで知りあい、というか同じクラスだし。

たくじー> 聡実い、オレもやられたぜ

聡みい> 何にい?

たくじー> 例のマルチハンドラーつてヤツ

オレはちえりとの一件を書き込んだ。

たくじー> ったくよー、あーゆー性悪女、法律で罰せられねーのかな?

聡みい> 無理じゃない?

たくじー> っくそ、今思い出しても腹が立つ あーブス!

聡みい> まったく、しょうがないなあ、たつくんは

たくじー > そういうなよ、ぜってー見抜けねーって、あんなの
聡みい > うん、そっちじゃなくて
聡みい > あたし言ったよね？

え？ それは……

聡みい > あたしの陰口たたいたりしたら、ぜんぶ晒すって

(後書き)

風海南都先生の作品『二次元彼女(裏口)』への感想でうっかりした事を書いたところ、「書いてみたら?」と返されてしまい、書きました。いつもより、さらに短くなっています。

広告募集中

小説関連広告に最適です。
出版社や印刷会社はもちろん、
個人の広告でもOK

縦：140mm 横：110mm

詳しくは PDF 小説ネット広告募集をご覧ください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0045c/>

仮面の裏側

2008年11月7日06時30分発行

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネットは2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。